

IWAKI-HANAWA in 2018



磐城塙

いわきはなわ駅
福島県東白川郡塙町
昭和6年開業

キノコの駅は読みざかり

南東北太平洋側の山塊は地理上、久慈川水系を境に阿武隈高地と八溝山地に分けられる。つまり、奥久慈清流は二つの山塊が、あるいは小突き合い、あるいは背を向ける、そんな関係の合間を縫って流れるわけだ。もとより両方の山塊とも総じてなだらかなので、懐にいくつも盆地とも高原ともつかない平地を拵える。水郡線沿線で最も険しさを感じさせるのは、結局のところ、茨城県側の大子町一帯であって、福島県に入ってから以降、終着の郡山市内に至るまで、さしたる難所は見られない。

開けた田園地帯を矢祭町からそのまま引き継ぐ塙町。市街の規模は決して大きくないが、車窓から眺める限りは、郊外型のロードサイド店が多く、矢祭町中心部の東館駅辺りよりは、垢抜けた印象を受ける。列車は、久慈川に沿って延びる家並みを挟み込むようにして、山裾を回りながら磐城塙駅へ。すると、誰もがあつと驚くに違いなく、そこにはホームいっぱい、キノコのような建物がニョキニョキと生えている。町立図書館や漫画家・富永一朗氏寄贈の画廊、カフェなどを併設した、コミュニティプラザと呼ばれる駅舎の規模は、小さな町に似合わず、ことのほか大きい。

奇抜に見える外観は本来、森林をイメージしたデザインら

しい。しかし、色使いからだろう、多くの旅人がキノコ駅舎と評して、かえって注目の的になった。もちろん見た目だけでなく、木材の梁を和傘のように巡らせた吹き抜けの内装や、複合施設としての使いやすさも評価され、ブルネル賞やグッドデザイン賞など、多くの受賞歴を持つ。平成五年の完成といえば、公共施設との合築駅舎としてはまだ走りの存在。小自治体の官民合同プロジェクトという面では、外観も規模も内容も、そして費用面でも、まさに地元の象徴をつくらんとする大勝負だったことだろう。沿線で最も運行本数が少なくなる区間で、無人化されてもおかしくないところ、駅の中にも外にも人の温もりが実感できて、見事に目的が果たされて

いる。

自然の町のモダンさは、駅舎のみにとどまらず、幅の広い駅前通りをはじめ、直線に区画整理された街路や、淡々として明るいまち並みからもうかがえる。塙という字は小高い場所の意味だが、むしろ花輪と当てた方が似合うほど、町内は花の名所が多い。久慈川のサイクリングコース沿いに広がる桜並木をはじめ、車窓から見上げる風呂山公園の山ツツジ、町を挙げてのダリア祭りなど。四季それぞれの花を楽しむ前に、情報基地の駅でくつろぎながら、思い思いの読みざかり。旅の奥行きを感じさせてくれる、キノコの山は予想以上に魅力ある存在だ。